



2023年12月期 決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年2月13日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888
定時株主総会開催予定日 2024年3月26日 配当支払開始予定日 2024年3月27日
有価証券報告書提出予定日 2024年3月27日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期の連結業績（2023年1月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期	27,514	24.7	1,965	△2.9	1,901	△12.6	2,084	12.2	2,114	12.6	2,065	10.5
2022年12月期	22,062	31.4	2,024	172.5	2,175	215.6	1,857	395.1	1,877	306.9	1,868	429.9

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後 1株当たり当期利益	親会社所有者帰属持分 当期利益率	資産合計 税引前利益率	売上収益 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年12月期	113.17	113.17	11.0	7.1	7.1
2022年12月期	99.75	99.75	10.7	8.0	9.2

(参考) 持分法による投資損益 2023年12月期 1,337百万円 2022年12月期 1,340百万円

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期	27,215	19,519	19,957	73.3	1,080.22
2022年12月期	26,422	17,994	18,389	69.6	976.29

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年12月期	1,072	665	△1,192	5,084
2022年12月期	1,649	1,523	△2,241	4,538

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2022年12月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00	188	10.0	1.1
2023年12月期	—	0.00	—	20.00	20.00	369	17.7	1.9
2024年12月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00		8.5	

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	16.3	2,400	22.1	2,200	4.0	117.41

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
 ② ①以外の会計方針の変更：無
 ③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 17「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数

2023年12月期	18,967,410株	2022年12月期	18,967,410株
2023年12月期	492,181株	2022年12月期	130,909株
2023年12月期	18,687,220株	2022年12月期	18,821,939株

(参考) 個別業績の概要

2023年12月期の個別業績（2023年1月1日～2023年12月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期	1,106	181.6	297	—	297	—	283	—
2022年12月期	392	△79.1	△247	—	△238	—	△39	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期	15.17	—
2022年12月期	△2.08	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
2023年12月期	16,620	93.2	15,589	93.2	—	—	838.33	
2022年12月期	17,206	91.4	15,836	91.4	—	—	835.33	

(参考) 自己資本 2023年12月期 15,488百万円 2022年12月期 15,734百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 8「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	7
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	7
(4) 今後の見通し	8
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	9
3. 連結財務諸表及び主な注記	10
(1) 連結財政状態計算書	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	12
(3) 連結持分変動計算書	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(会計方針の変更)	17
(セグメント情報等)	18
(1株当たり情報)	23
(重要な後発事象)	24

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があり、先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

このような中、2023年3月9日及び2023年11月13日付け「自己株式の取得に関するお知らせ（会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得）」のとおり、今後の経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行並びに組織再編等を見込み、それぞれの対象期間において当社普通株式を200,000株ずつ、計400,000株（取得総額：381,220,724円）を取得いたしました。また、4月17日に株式会社UNITED PRODUCTIONS（以下「UP」という。）が、グローバル基準の映像作品の制作を行うコンテンツスタジオ「TOKYO ROCK STUDIO 株式会社」（以下「TRS」という。）を設立し、グローバルスタンダードな映像制作現場のバックオフィス業務において重要な役割を担う制作経理業務を取得し、国際案件の経験が豊富なプロデューサー陣を中心に国際共同企画作品の開発などを開始いたしております。10月17日には、大規模なオーディション企画の開催と運営及びマネジメントを展開する新会社として、b i j o u x株式会社（読み「ビジュウ」、以下「b i j o u x」という。）を設立し、次世代のIPコンテンツの創出に向けたオーディションを開催しております。さらに、直近では、2023年11月13日付け「子会社（株式会社ノース・リバー）による株式会社10ANTZの株式一部取得による当社の孫会社化に関するお知らせ」のとおり、株式会社ノース・リバー（以下「ノース・リバー」という。）が主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ（以下「テンアンツ」という。）の株式の51%を取得しており、今後も積極的な投資活動による当社グループの更なる収益規模の拡大及び強化に向けた展開を図ってまいります。

総合エンターテインメント事業では、事業環境の改善に伴い、大型イベントの開催やライブ・ツアーなどのほか、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存の番組制作の進捗のほか、特番放送されていた番組がレギュラー化された事に加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件が公開されるなど順調なほか、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を行っております。

広告代理店事業につきましても、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業が好調を維持しており、各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めました。

各事業の詳細につきましては、後述のセグメント別概況にて記載しております。

以上の結果、当連結会計年度における業績は、売上収益27,514百万円（前期比+24.7%）、営業利益1,965百万円（前期比△2.9%）、税引前利益1,901百万円（前期比△12.6%）、親会社の所有者に帰属する当期利益2,114百万円（前期比+12.6%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト（以下「ゼスト」という。）及びノース・リバー並びに株式会社A. M. Entertainment（以下「AME」という。）が、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動内容は以下のとおりであります。

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
SKE48	1月7日、8日	派生ユニット「プリマステラ」静岡出張公演2days
	3月5日	6期生10周年記念ライブ
	4月1日～ 5月5日	春のチームコンサート2023
	4月20日、 5月18日	シャチフレLIVE
	5月26日、 6月27日	江籠裕奈 4th Solo Live
	5月31日	熊崎晴香 ソロライブ
	6月1日	末永桜花 ソロライブ2023
	6月15日～ 18日	プリマステラ 2023 LIVE
	7月3日	31st「好きになっちゃった」リリース。7月11日発表の「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、27作連続・通算27作目のシングル1位に。
	8月2日～ 9月1日	SUMMER Tour 2023
	9月29日～ 10月1日	SKE48リクエストアワーセットリストベスト100
	10月1日	結成15周年ライブ
	11月20日	STU48合同ライブ
	12月11日	江籠裕奈 卒業記念 Solo Live
	12月12日	カミングフレイバーLive
	12月13日～15日	チーム別コンサート
12月17日	ドラフト1期生 10周年Live	
乃木坂46	2月22日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY1」横浜アリーナ
	2月23日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY2～5期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月24日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY3～4期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月25日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY4～3期生ライブ～」横浜アリーナ
	2月26日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY5～秋元真夏 卒業コンサート～」横浜アリーナ
	3月28日	鈴木絢音 卒業セレモニー
	3月29日	32nd「人は夢を二度見る」リリース。4月4日発表の最新「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、31作連続・通算31作目のシングル1位に。
	4月5日～ 4月27日	32nd シングルアンダーライブ
	5月17、18日	齋藤飛鳥卒業コンサート（東京ドーム）
	7月1日～ 8月28日	真夏の全国ツアー2023
	8月23日	33rd「おひとりさま天国」リリース。8月29日発表の最新「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、32作連続・通算32作目のシングル1位に。
	9月29日～ 10月1日	33rd シングルアンダーライブ
	11月21日～ 12月3日	新参者（5期生ライブ）
	12月16日～17日	超・乃木坂スター誕生！LIVE

Novel bright	1月20日～ 2月4日	竹中雄大 口笛コンサート ～Whistling Sound Vol.1～ (兵庫、東京)
	1月28日	「FUKUOKA MUSIC FES.2023」出演
	2月15日～	「ラストシーン」(TVアニメ『弱虫ペダル LIMIT BREAK』第2ク ールオープニングテーマ)
	2月20日～ 3月15日	NOVELCITY CARNIVAL Vol.3 (名古屋、東京、大阪)
	2月28日～ 3月13日	KICK THE AGE TOUR Vol.2.5 (福岡、大阪、名古屋)
	3月15日	新曲「嫌嫌」配信リリース
	4月9日～	新曲「Cantabile」がNHK Eテレ・アニメ「青のオーケストラ」 オープニングテーマに決定
	4月7日～ 7月29日	Novelbright LIVE TOUR 2023 ～ODYSSEY～ 19都 市20公演敢行
	8月30日～ 9月13日	ビルボードライブ・ツアー
	9月13日	新曲「面影」をリリース
	9月24日	LIVE TOUR 2023 結成10周年記念ライブ：大阪城ホール
	10月15日	LIVE TOUR 2023 結成10周年記念ライブ：横浜アリーナ 新曲「ODYSSEY」リリース。結成10周年記念シングル
	10月22日	LIVE TOUR 2023 ～ODYSSEY～ in KOREA
	12月13日	新曲「雪の音」をリリース。2024年1月6日より放送されているTVアニメ「ゆ びさきと恋々」のオープニングテーマに決定

各種大型イベントやライブ等の開催における観客の声出しが可能になったことから、当社グループに所属するアーティストの活動におきましても、積極的かつ精力的な活動を展開したほか、併せてファン層の購買意欲も向上していることで、各種イベントにおけるグッズ売上やDVD等の原盤収入も想定を上回っており、業績の積み上げに寄与しております。

また、2023年3月末で乃木坂46を卒業した「鈴木絢音」が10月1日よりAMEの新所属となったほか、「e t-アンド-」や「若月佑美」、「小栗有以」、「生駒里奈」、「古畑奈和」、「まるり」などの所属アーティストやタレントにつきましても、ドラマや各種イベント、情報番組への出演のほか、アニメや企業とのタイアップなど、様々な場面において活躍の場を増やしております。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションアプリとして、2023年4月でリリースから7周年を迎えた乃木坂46公式の「乃木恋」や、2020年11月の発表より順調にダウンロード数を伸ばしている日向坂46公式の「ひなこい」など、スマートフォン向けのゲームアプリの企画・管理・運営やプロモーションに関わる支援を継続して行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益11,318百万円(前期比+7.4%)、セグメント利益2,125百万円(前期比△3.7%)となりました。

〔映像制作事業〕

同事業につきましては、UPが既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び製作を行っております。映像制作における、主な成果（レギュラー化やドラマ、映画製作等）は以下のとおりであります。

分類	放送・公開 開始日等	番組名（補足）
バラエティ	4月11日～	TBSテレビ「再現できたら100万円！THE神業チャレンジ」が特番を経て、レギュラー番組に昇格
	4月16日	「運搬千鳥 それ、どうやって運ぶんじゃ？」（特番）
	5月13日、 27日	「理系応援バラエティ 実験ジャパン」（特番）
	5月20日	「企業満足度調査員 忌憚なく蔵&なく美」（特番）
	6月10日	「オドオド×ハラハラ」（特番）
	7月22、23 日	「千鳥の鬼レンチャン（フジテレビ）」をメインにしたフジテレビ特番「FNS27時間テレビ」を放送
	8月5日	「ファン1万人がガチで投票！高校野球総選挙2023」3時間SP（特番）
	8月19日	「池上彰と林修が初タッグ！日本の「今」を徹底解説！学びコラボSP」3時間半SP（特番）
	9月2日	「何を隠そう…ソレが！」（特番）
	9月17日	「とみおたち」（特番）
	10月3日～	新番組 テレビ朝日「新しい学校のリーダーズの課外授業」放送開始
	10月7日	テレビ朝日「1万人が選ぶ！ついに決定！令和vs平成vs昭和アニソンランキング」3時間半SP（特番）
	10月10日～	「トークサバイバー！～トークが面白いと生き残れるドラマ～（Netflix）」のシーズン2が全世界同時配信開始
	10月14日	「オールスター感謝祭2023秋」5時間半SP（特番）
	12月23日	テレビ朝日「今夜ついに決定！1万人が選ぶ！令和・平成・昭和 お菓子ランキング」（年末特番）
12月25日	テレビ朝日「令和版 美食アカデミー」（年末特番）	
ドラマ	2月10日～	Hulu「社畜OLちえ丸日記」
	3月28日～	TBSドラマストリーム「私がヒモを飼うなんて」
	4月14日～	NTTドコモ「Lemino」のオリジナルドラマ「アクトレス」
	7月11日～	TBSドラマ「18/40（エイティーン/フォーティ）～ふたりなら夢も恋も～」
	9月17日～	MBS「女子高生、僧になる。」
	10月24日～	MBS「マイホームヒーロー」
	11月21日～	TBSドラマストリーム「恋愛のすゝめ」
映画	6月23日～	企画・製作として、人気コミック作品の「君は放課後インソムニア」を原作とした同名映画化作品に携わる。全国136館で上映
	9月18日	2024年公開予定の映画「若き見知らぬ者たち」制作開始を発表
	9月29日～	横尾初喜監督の最新作、オール長崎ロケーション映画「こん、こん。」全国順次公開

その他にも、既存のバラエティ番組をはじめ、継続的に年末年始特番を多数制作しており、積極的に受注を獲得し、着実に実績を積み上げております。

株式会社TechCarryで展開しております、番組制作等でプロの技術者が使用する機材レンタル事業や編集作業を行うポストプロダクション事業につきましては、事業規模の拡大に必要な機材について、一定の商材確保が完了しており、着実に実績を積み上げております。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況に伴って、派遣の受け入れの変動はあるものの、引き続き順調に推移しております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益6,719百万円（前期比+26.3%）と増収であったものの、一部の制作案件におきましては、コンテンツ内容の強化に費用を掛けたことにより、セグメント利益190百万円（前期比△39.0%）となりました。

〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。

株式会社allfuzにて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブン-イレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施しております。また、同社は乃木坂46公式ライバルグループ「僕が見たかった青空」の立ち上げプロジェクトに資本参画しており、広告代理店として本プロジェクトにおけるマーチャндаイジングの部分で活動をサポートしております。広告代理店における、当連結会計年度における実績となった主な実施案件は以下のとおりであります。

EC販売・キャンペーン等開始日	案件名
2022年6月1日～	g o ! g o ! v a n i l l a s オフィシャルグッズ販売
2022年11月10日～	D r a g o n A s h 25周年記念 オリジナルグッズ販売
2022年11月30日～	5ピースト オフィシャルアイテム販売 / フォロー&リツイート キャンペーン
2022年12月7日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×八天堂 記念セット
2022年12月12日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×酔心 鳳凰酔心 窮極の大吟醸
2023年1月13日～	L i v e t h e S P E E D S T A R オリジナルグッズ販売
2023年1月25日～	ゆず オリジナルグッズ販売
2023年2月10日～	D r a g o n A s h ドラマー 桜井誠プロデュース桜井食堂ダブルペッパーポークカレー
2023年5月9日～	まるり オフィシャルグッズ販売
2023年7月22日～ 8月31日	お台場冒険王オフィシャルサポーター就任 (僕が見たかった青空)
2023年7月22日～	セブンイレブン「セブンカフェスムージー」CM (僕が見たかった青空)
2023年7月31日～	S H E ' S オフィシャルグッズ販売
2023年8月2日～	E A R T H S H A K E R オフィシャルグッズ販売
2023年8月19日～	「CHINTAI」の新イメージキャラクター就任 (僕が見たかった青空)
2023年8月24日～ 9月13日	A B C - M A R T ・ ニューバランスのキャンペーン第1弾モデル就任 (僕が見たかった青空)
2023年8月31日～	まるり×向井珍味堂 オリジナルきな粉 まるきなこ販売 (受注販売)
2023年9月14日～	A B C - M A R T ・ ニューバランスのキャンペーン第2弾モデル就任 (僕が見たかった青空)
2023年9月28日～	D r a g o n A s h ドラマー 桜井誠プロデュース桜井食堂第2弾クリーミーコルマチキンカレー販売
2023年11月1日～	全日本大学バスケット選手権のオフィシャルサポーター就任 (僕が見たかった青空)
2023年11月22日～	K O S E 「MAKE KEEP MIST」SNS広告 (小栗有以)
2023年12月21日～	K O S E 「MAKE KEEP MIST」広告動画 (小栗有以)
2023年12月25日～	純烈 m a r i m a n i 第1弾セラミックかつさ販売
2024年1月4日～	「CHINTAI」の新CM (僕が見たかった青空)

※販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当連結会計年度の積み上げ案件を列举しております。

※広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。

上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益9,371百万円（前期比+58.9%）、セグメント利益279百万円（前期比+837.5%）となりました。

〔その他事業〕

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業を展開しております。

以上の結果、その他事業の業績は、2022年9月末に運送事業の全株式を譲渡したことにより、売上収益104百万円（前期比△65.3%）、セグメント利益18百万円（前期比△72.8%）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べて793百万円増の27,215百万円となりました。これは主として無形資産が減少した一方で、現金及び現金同等物、持分法で会計処理している投資が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて731百万円減の7,695百万円となりました。これは主としてその他の金融負債及び繰延税金負債が減少したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて1,525百万円増の19,519百万円となりました。これは主として自己株式の取得により自己株式が増加した一方で、親会社の所有者に帰属する当期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ545百万円増加し5,084百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,072百万円の資金の増加（前期比△34.9%）となりました。これは主として法人所得税等の支払により資金が減少した一方で、税引前利益の計上により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、665百万円の資金の増加（前期比△56.3%）となりました。これは主として利息及び配当金の受取により資金が増加したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,192百万円の資金の減少（前期は2,241百万円の資金の減少）となりました。これは主として自己株式の取得、利息及び配当金の支払、リース負債の返済によるものであります。

(4) 今後の見通し

2024年12月期における通期連結業績予想につきましては、売上収益を32,000百万円、営業利益を2,400百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益を2,200百万円と見込んでおります。

当社グループにおきましては、企業としての社会的責任を全うするべく、国内外の動向に対しては最大限の配慮をしつつ、機動的に必要なかつ十分な対策を行いながら積極的な事業活動を展開してまいります。

〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手等の様々な活動を通して、多くのファンの皆様にご支援いただけるプロダクション運営を行ってまいります。

2024年12月期第1四半期における大型イベントの開催予定等につきましては、乃木坂46が1月25日～27日の3日間で「34th SGアンダーライブ」を開催したほか、3月7日～10日までの4日間で埼玉スーパーアリーナにおいて「乃木坂46 12th YEAR BIRTHDAY LIVE」の開催を予定しております。SKE48は、日々の劇場公演の開催のほか、ティーンズユニットとしてファン投票で選ばれた派生ユニットであるプリマステラが、1月12日～21日までの期間において4都市8公演のライブを開催いたしました。Novelbrightにつきましては、1月21日開催の「FUKUOKA MUSIC FES. 2024」や3月16日開催予定の「めざましテレビ30周年フェス in 東京」等の大型フェスへの出演のほか、3都市において「NOVELCITY CARNIVAL Vol.4」のファンクラブイベント開催を予定しております。また、大型のツアーにつきましても、4月以降に4か月間をかけて、全国25都市を廻る「Novelbright LIVE TOUR 2024」の開催を予定しております。

タレント等につきましても、俳優としての評価が上がっている若月佑美や生駒里奈、小栗有以のほか、舞台などへの出演で評価を高めている古畑奈和や、SKE48を昨年末に卒業後、2024年1月1日からソロ活動を開始している江籠裕奈のソロ活動後初のシングルが春にリリースされる予定に加え、TikTokのフォロワー数700万人を誇る元ハンドボール日本代表キャプテンの土井レミイ杏利等の複数の所属アーティスト、タレントが活躍の幅を広げており、引き続き積極的な活動を展開してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、乃木坂46や櫻坂46、日向坂46の全坂道グループのスマートフォン向けのゲームアプリの企画・開発・運営を手掛け、プラットフォーム事業や映像・IP事業、デジタルマーケティング事業なども多角的に展開しているテンアーツの株式の51%を取得し、同社は当社グループの一員となっております。同社では引き続き、坂道グループに係るアプリ運営事業を継続する傍ら、今後はその開発リソースと、当社グループにおける自社IPコンテンツ及び映像制作など、既存事業とのグループシナジーによる新展開及び発展を図り、更なる事業規模の拡大に努めてまいります。また、2023年10月に、大規模なオーディション企画の開催と運営及び、マネジメントを展開する会社として、bijouxを新設しております。足元では二次審査の最中ですが、2024年3月20日に予定する最終審査会では著名な映画監督やプロデューサーを特別審査員として招聘することが決定しており、新たな収益機会の創出に向けた取り組みとして、次世代のIP発掘と育成にも注力してまいります。

〔映像制作事業〕

現在の主流である、各テレビ局からの依頼に基づく制作案件を積極的に継続してきたことで、バラエティ番組では、企画・制作力を活かして、「千鳥の鬼レンチャン（フジテレビ）」や「イタズラジャーニー（フジテレビ）」「熱狂マニアさん！（TBS）」など、レギュラー番組16件の制作に携わっております。これらの実績が放送各局でも評価されており、年末年始を含む特番等の新規案件の獲得にも努めることで、着実に実績を積み上げてまいります。

そのほか、2023年10月10日から全世界190カ国以上で、UPが制作プロダクションとして携わった作品Netflixコメディシリーズ「トークサバイバー！～トークが面白いと生き残れるドラマ～（Netflix）」のシーズン2の配信が開始されております。

映画製作及びドラマ制作につきましては、2020年公開の「佐々木、イン、マイイン」で若者から圧倒的な支持を得て、各界の著名人からも大絶賛され、同映画で同年の映画祭等の新人賞を総なめにした内山拓也監督の商業長編デビュー作となる「若き見知らぬ者たち」は、主演に磯村勇斗さん、共演には福山翔大さんが務めるほか、海外配給会社の注目を集め、フランス、韓国、香港そして日本の4つの国と地域での共同製作映画となり、2024年の公開に向けて準備が進められております。さらに、UPがロケーション協力した大ヒットコミック「マイホームヒーロー」の映画化作品は、2024年3月8日より全国劇場公開が決定しております。

新規事業の分野では、TRSがグローバルスタンダードな映像制作現場のバックオフィス業務を担う制作経理業務及びグローバル向け作品の企画・制作を進めております。創業メンバーに全米ロケーションマネージャー協会（※）に日本人で初めて正式登録されたプロデューサーを含む強力な企画・制作陣が、アメリカ・ロサンゼルスで開催された「アメリカンフィルムマーケット」やイギリス・ロンドンで開催された「FOCUS2023」などの全米、欧州等における映画、テレビ、広告、ゲーム、XRに関連した海外の映画祭や展示会に参加し、日本国内へのロケーション誘致や国際共同企画に関するロビー活動を行うなど、積極的な活動を展開しております。直近におきましては、アメリカのHBO MaxとWOWが共同製作している「TOKYO VICE」のシーズン2に関する業務を行っており、こちらの映像作品は2024年4月6日より日本での放送・配信が開始されます。

今後も業況に合わせた社内体制や予算管理体制の更なる強化を図り、映像制作におけるノウハウと人材派遣で培った多くの制作会社や各放送局、各種配信プラットフォーム等とのリレーションを活かすと共に、開始するプロダクションバックオフィス事業を掛け合わせ、安定的かつ高品質の制作案件を継続的に手掛けることで、更なる収益構造の強化を目指します。

※映画やテレビ番組などの制作に関連し、撮影ロケーションの選定から現地における行政機関等との交渉や許可取りを専門的に担う業務で、能力・実績共に認められた者が世界各国から選出されている組合。グローバル標準の作品づくりにおいて“脚本を映像化する上でとても重要な役割で、監督の側近とも言える立場”とされており、ハリウッドを含め全米並びに世界各国からのあらゆる映像作品に係る情報収集も可能となる。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告部門におきましては、YouTube等の動画配信プラットフォーム向けの広告案件を手掛けることにより、TikTokやInstagram、Facebook、LINE Ads Platform等、広告媒体としての活用度に広がりを見せているデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開していくほか、テンアンツが展開している、プラットフォーム事業や映像・IP事業、デジタルマーケティング事業等の実績に基づくグループシナジーによる広告案件の受注戦略をとるほか、不動産業界や金融業界等の新たな事業分野への積極的な展開によって、引き続き業容の拡大を図ってまいります。

広告代理店部門におきましては、引き続きセブン・イレブン・ジャパンとの案件を中心に、乃木坂46公式ライバルグループの「僕が見たかった青空」に関しましても、広告代理店およびマーチャンダイジングの部分で本プロジェクトに資本参画しております。前述の実績のとおり、今期既に株式会社CHINTAIの「CHINTAI」の新CM案件などを担当しており、引き続き大型案件を含めた各種活動をサポートしてまいります。

さらに、学校法人佐久長聖高等学校との取り組みで、「パフォーマンスアーツ」及び「ゲームプログラミング」の新コース設立に携わり、学校法人初となる在校生で構成されたアイドルグループ「7限目のフルール」の活動は、4月に2期目を迎えますが、入校生は当該グループのメンバーの2期生としての活動を視野に、体制を強化していくなどの支援を引き続き行うことで、積極的な活動を行ってまいります。また、4月以降には、ゼストがオンラインで学べる広域通信制・単位制のルネサンス高校グループとの事業提携により、「ゼスト エンタテインメント高等学院」を開校し、ダンス・歌唱・演技関連のレッスンを学業の一環として提供してまいります。現在、同校に関するオープンキャンパスを開講しており、大変多くの親子様にご来校いただいております。万全の態勢で開校できるよう鋭意準備を進めている段階です。

今後につきましても、イベントの企画・提案・開発のほか、企画に基づく商品企画のマネタイズもできる等、クライアントの要望を一手に引き受けられるノウハウを背景に、大手企業やスポーツチーム、著名アーティスト等とのタイアップを行い、グループの強みを生かした積極的な営業戦略によって、大小を問わず様々な案件に携わることで、事業規模の拡大に努めてまいります。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。

当社グループにおきましては、新設会社のbijouxによる大規模オーディションの開催のほか、ゲームアプリ開発事業やプラットフォーム事業等のデジタルリソースを有するテンアンツのグループインなど、総合エンターテインメント系企業グループの将来における飛躍と発展に向けて積極的な投資活動を行っております。今後も、グループ会社15社（持分法適用会社含む）によるシナジー効果を十分に発揮することで、通期連結業績予想の必達並びに事業規模の拡大に向けて全社一丸となって事業活動に邁進してまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上等を目的として、2019年3月期より国際財務報告基準（IFRS）を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	4,538,770	5,084,034
営業債権及びその他の債権	3,506,718	3,651,230
その他の金融資産	956,385	987,390
棚卸資産	449,819	386,769
その他の流動資産	145,961	231,197
流動資産合計	9,597,655	10,340,622
非流動資産		
有形固定資産	1,152,041	937,604
のれん	5,215,259	5,218,852
無形資産	1,959,621	1,571,345
投資不動産	954,550	934,961
持分法で会計処理している投資	6,495,093	7,042,877
その他の金融資産	799,464	699,641
繰延税金資産	61,011	317,144
その他の非流動資産	187,394	152,287
非流動資産合計	16,824,435	16,874,715
資産合計	26,422,091	27,215,337

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,077,177	3,195,710
社債及び借入金	845,564	881,502
その他の金融負債	581,585	642,872
未払法人所得税等	175,677	25,594
引当金	—	99,757
契約負債	444,470	319,850
その他の流動負債	244,740	292,729
流動負債合計	5,369,216	5,458,017
非流動負債		
社債及び借入金	1,148,710	1,081,517
その他の金融負債	1,082,875	690,691
長期従業員給付	146,045	178,504
引当金	166,595	151,956
繰延税金負債	514,177	135,086
非流動負債合計	3,058,403	2,237,756
負債合計	8,427,620	7,695,774
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,660,367	14,667,114
自己株式	△94,655	△440,809
その他の資本の構成要素	86,597	73,945
利益剰余金	3,645,088	5,564,566
親会社の所有者に帰属する持分合計	18,389,847	19,957,267
非支配持分	△395,376	△437,703
資本合計	17,994,471	19,519,563
負債及び資本合計	26,422,091	27,215,337

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	22,062,586	27,514,247
売上原価	17,820,777	22,957,822
売上総利益	4,241,809	4,556,425
販売費及び一般管理費	3,658,677	3,855,544
持分法による投資利益	1,340,194	1,337,784
その他の収益	179,297	60,636
その他の費用	77,731	133,869
営業利益	2,024,892	1,965,432
金融収益	235,758	8,604
金融費用	85,014	72,053
税引前利益	2,175,636	1,901,983
法人所得税費用	317,673	△182,357
当期利益	1,857,963	2,084,340
当期利益の帰属		
親会社の所有者	1,877,502	2,114,874
非支配持分	△19,539	△30,533
当期利益	1,857,963	2,084,340
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益	99.75	113.17
希薄化後1株当たり当期利益	99.75	113.17

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期利益	1,857,963	2,084,340
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金 融資産	10,177	△19,242
純損益に振り替えられることのない項目合計	10,177	△19,242
税引後その他の包括利益	10,177	△19,242
当期包括利益	1,868,140	2,065,098
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,887,679	2,095,631
非支配持分	△19,539	△30,533
当期包括利益	1,868,140	2,065,098

(3) 連結持分変動計算書

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2022年1月1日時点の残高	6,566,249	8,198,961	△29,309	77,617	1,955,790	16,769,309	△375,836	16,393,473
当期利益					1,877,502	1,877,502	△19,539	1,857,963
その他の包括利益				10,177		10,177		10,177
当期包括利益合計	—	—	—	10,177	1,877,502	1,887,679	△19,539	1,868,140
減資	△6,476,249	6,476,249				—		—
新株予約権の行使	2,450	2,450		△50		4,850		4,850
剰余金の配当					△189,352	△189,352		△189,352
自己株式の取得		△1,401	△281,295			△282,697		△282,697
自己株式の処分		△15,892	215,949			200,057		200,057
利益剰余金への振替				△1,147	1,147	△0		△0
所有者との取引額合計	△6,473,799	6,461,406	△65,346	△1,197	△188,204	△267,142	—	△267,142
2022年12月31日時点の残高	92,450	14,660,367	△94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	△395,376	17,994,471
当期利益					2,114,874	2,114,874	△30,533	2,084,340
その他の包括利益				△19,242		△19,242		△19,242
当期包括利益合計	—	—	—	△19,242	2,114,874	2,095,631	△30,533	2,065,098
支配継続子会社に対する持分変動		3,694				3,694	△11,794	△8,100
新株予約権の行使				△440		△440		△440
剰余金の配当					△188,365	△188,365		△188,365
自己株式の取得		△1,706	△384,513			△386,220		△386,220
自己株式の処分		4,760	38,360			43,120		43,120
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				7,031	△7,031	—		—
所有者との取引額合計	—	6,747	△346,153	6,591	△195,396	△528,211	△11,794	△540,005
2023年12月31日時点の残高	92,450	14,667,114	△440,809	73,945	5,564,566	19,957,267	△437,703	19,519,563

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	2,175,636	1,901,983
減価償却費及び償却費	988,487	1,012,459
減損損失	16,129	104,333
受取利息及び受取配当金	△16,537	△5,631
支払利息	51,269	45,993
持分法による投資損益(△は益)	△1,340,194	△1,337,784
固定資産売却損益(△は益)	△46,898	△2,558
固定資産除却損	29,659	322
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	△152,987	24,517
関係会社株式売却益	△662	—
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	433,219	△158,560
棚卸資産の増減額(△は増加)	△73,214	63,050
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△130,723	114,076
契約負債の増減額(△は減少)	△106,325	△124,619
預り金の増減額(△は減少)	△30,086	△31,796
配当源泉税の未払いの増減額(△は減少)	△1,026,388	—
引当金の増減額(△は減少)	△32,640	80,357
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△110,865	32,458
その他	60,797	44,138
小計	687,673	1,762,740
法人所得税等の支払額	△462,529	△786,159
法人所得税等の還付額	1,423,942	96,412
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,649,086	1,072,993
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△590,006	△40,000
有形固定資産の取得による支出	△77,494	△113,616
有形固定資産の売却による収入	341,830	2,558
無形資産の取得による支出	△413,007	△412
投資不動産の売却による収入	406,220	—
投資有価証券の取得による支出	△117,620	—
投資有価証券の売却による収入	1,929,033	100,788
出資金の払込による支出	△16,510	△19,797
保険積立金の積立による支出	△39,641	△84,455
保険積立金の解約による収入	76,242	—
敷金保証金の差入による支出	△7,306	△163,266
敷金保証金の回収による収入	23,540	175,567
資産除去債務の履行による支出	△21,400	△2,065
利息及び配当金の受取額	16,537	795,631
事業譲受による収入	—	11,798
連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△2,647	—
持分法で会計処理している投資の売却による収入	2,228	—
その他	13,510	2,371
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,523,508	665,101

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△500,000	—
長期借入れによる収入	600,000	950,000
長期借入金の返済による支出	△986,497	△973,255
社債の償還による支出	△250,080	△28,000
自己株式の取得による支出	△281,295	△384,513
自己株式の売却による収入	57	—
利息及び配当金の支払額	△223,108	△218,385
リース負債の返済による支出	△596,446	△571,540
新株予約権の行使に伴う収入	4,850	42,680
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による 支出	—	△8,100
その他	△9,143	△1,715
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,241,663	△1,192,830
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	930,931	545,264
現金及び現金同等物の期首残高	3,607,839	4,538,770
現金及び現金同等物の期末残高	4,538,770	5,084,034

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループの連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当社及び一部の子会社は、当連結会計年度より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。当社グループは、当連結会計年度より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	重要な (significant) 会計方針ではなく、重要性がある (material) 会計方針の開示を要求する改訂
IAS第8号	会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	会計方針と会計上の見積りとの区分を明確化
IAS第12号	法人所得税	リース及び廃棄義務に係る繰延税金の会計処理を明確化

上記基準書の適用による連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報等)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- 「総合エンターテインメント事業」：タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理など
- 「映像制作事業」：各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など
- 「広告代理店事業」：タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。

なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	10,541,890	5,321,878	5,897,942	21,761,711
セグメント間収益	107,613	21,622	204,192	333,428
合計	10,649,504	5,343,501	6,102,134	22,095,140
セグメント損益(注) 3 (営業利益)	2,205,838	312,233	29,762	2,547,834

金融収益

金融費用

税引前利益

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
売上収益				
外部収益	300,874	22,062,586	—	22,062,586
セグメント間収益	1,170	334,598	△334,598	—
合計	302,044	22,397,185	△334,598	22,062,586
セグメント損益(注) 3 (営業利益)	68,926	2,616,761	△591,869	2,024,892

金融収益

235,758

金融費用

85,014

税引前利益

2,175,636

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
セグメント資産	11,532,339	3,700,728	1,845,622	17,078,690
セグメント負債	3,427,761	1,769,107	1,052,240	6,249,109
その他の項目				
減価償却費及び償却費	709,267	99,285	36,701	845,254
減損損失	16,129	—	—	16,129
持分法で会計処理している投資	6,495,093	—	—	6,495,093
資本的支出	382,891	44,476	44,855	472,224

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
セグメント資産	1,584,953	18,663,644	7,758,446	26,422,091
セグメント負債	709,909	6,959,019	1,468,600	8,427,620
その他の項目				
減価償却費及び償却費	60,704	905,959	82,527	988,487
減損損失	—	16,129	—	16,129
持分法で会計処理している投資	—	6,495,093	—	6,495,093
資本的支出	2,458	474,683	6,614	481,297

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び運送事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント損益の調整額△591,869千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産及びセグメント負債並びにその他項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社分等であります。

3. セグメント損益は、連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	11,318,396	6,719,928	9,371,424	27,409,749
セグメント間収益	56,662	7,318	181,117	245,098
合計	11,375,058	6,727,247	9,552,541	27,654,848
セグメント損益(注)3 (営業利益)	2,125,094	190,431	279,007	2,594,533

金融収益

金融費用

税引前利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	104,497	27,514,247	—	27,514,247
セグメント間収益	—	245,098	△245,098	—
合計	104,497	27,759,345	△245,098	27,514,247
セグメント損益(注)3 (営業利益)	18,752	2,613,286	△647,854	1,965,432

金融収益

8,604

金融費用

72,053

税引前利益

1,901,983

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
セグメント資産	11,266,353	3,878,542	2,505,979	17,650,876
セグメント負債	3,376,011	1,782,206	973,292	6,131,510
その他の項目				
減価償却費及び償却費	693,507	143,587	45,768	882,863
減損損失	104,333	—	—	104,333
持分法で会計処理している投資	7,042,877	—	—	7,042,877
資本的支出	28,725	77,256	7,730	113,712

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
セグメント資産	1,242,810	18,893,686	8,321,650	27,215,337
セグメント負債	513,798	6,645,309	1,050,465	7,695,774
その他の項目				
減価償却費及び償却費	49,908	932,772	79,686	1,012,459
減損損失	—	104,333	—	104,333
持分法で会計処理している投資	—	7,042,877	—	7,042,877
資本的支出	—	113,712	3,909	117,621

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント損益の調整額△647,854千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産及びセグメント負債並びにその他項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社分等であります。

3. セグメント損益は、連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (千円)	1,877,502	2,114,874
希薄化後1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益 (千円)	1,877,502	2,114,874
発行済普通株式の加重平均株式数 (株)	18,821,939	18,687,220
普通株式増加数		
ストック・オプションによる増加 (株)	—	—
希薄化後の普通株式の加重平均株式数 (株)	18,821,939	18,687,220
基本的1株当たり当期利益 (円)	99.75	113.17
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	99.75	113.17
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり当期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 295,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)	株式会社KeyHolder 第2回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 1,602,940株) 株式会社KeyHolder 第3回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 251,000株) 株式会社KeyHolder 第4回新株予約権 (新株予約権の目的となる株式の数 192,150株)

(注) 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、基本的1株当たり当期利益と同額であります。

(重要な後発事象)

(株式取得による会社等の買収)

当社は、2023年11月13日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社ノース・リバー（以下「NR」という。）が、主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ（以下「TA」という。）の株式の一部を取得（以下「本件株式取得」という。）することにつき決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

(1) 株式取得の目的

当社グループにおきましては、これまでに数々のM&Aの実施を通じて規模の拡大を含む組織体制の強化及び再編に努めた結果、主力事業であるアーティストやタレント、スポーツ選手などの運営・管理を行う総合エンターテインメント事業、バラエティ番組からテレビドラマ制作、映画・CM等に係る映像制作事業、そして数々の販促・コラボ・プロモーション企画等を手掛けてきた広告代理店事業などを中心に、総合エンターテインメント企業グループとしての体制の構築を図り、積極的な事業活動を展開してまいりました。

NRは、当社グループ体制を構築する過程において、女性アイドルグループの「乃木坂46」を運営する乃木坂46合同会社の株式の50%を保有し、主に同グループのライブ制作及びグッズ制作や販売、ファンクラブに関する運営・管理に加え、アイドルグループ等に係るDVD・ライブ映像コンテンツの制作を行っており、当社グループ業績を牽引する存在として、大きな役割を担っております。

一方、TAは、2013年の設立以降、質の高い人材を武器にゲームアプリの企画・開発を中心とし、プラットフォーム事業や映像制作、デジタルマーケティング事業等の幅広い分野へも進出するなど、事業規模を拡大しております。ゲームアプリ事業においては、複数タイトルのゲームアプリの開発を行っており、その中でも、NRが関連している乃木坂46のメンバーとの恋愛疑似体験ができる、乃木坂46公式恋愛シミュレーションゲームアプリ「乃木恋～坂道の下で、あの日僕は恋をした～」に関しては、配信開始6年目となる2022年9月時点で累計ダウンロード数が1,000万を突破するなど、長期間に渡ってユーザーに愛されるコンテンツの開発ノウハウを有しております。

このような中、近年の消費者（アプリユーザー）の趣味や志向・流行は、新コンテンツが日々生み出されることで常に変化し続けており、この潮流を的確に掴み、新たなコンテンツを提供し続ける必要があると認識しております。

この度の株式取得に際しまして、両社間では乃木坂46という日本トップクラスの女性アイドルグループのアプリを通して、もとより良好な取引関係が構築されていたことを前提に、当社グループが有する他のアーティスト等のIPやコンテンツにおける新展開のほか、株式会社UNITED PRODUCTIONSなどが生み出す映像コンテンツや、株式会社FA Projectのデジタル広告事業ならびに、bijoux株式会社によるオーディション企画の開催と運営など、当社グループにおける各種既存リソースとのあらゆるシナジーによる新展開が期待でき、結果として双方のさらなる事業規模の拡大を図れるものとの認識を共有できたことにより、本件株式取得をするものです。

(2) 株式取得の相手先

高澤 真
高澤 和歌
合同会社ロイヤルコート

(3) 株式取得する会社の名称等

①名称 株式会社10ANTZ
②住所 東京都渋谷区渋谷3-12-18 渋谷南東急ビル4階
③代表者の氏名 代表取締役 高澤 真
④資本金の額 51,444千円（2023年6月30日現在）
⑤事業の内容 ゲームアプリ事業、プラットフォーム事業、映像・IP事業、デジタルマーケティング事業、エンタメテックソリューション事業等

(4) 株式取得の時期

2024年1月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

①取得する株式の数 3,245株
②取得価額 1,314,017千円
③取得後の持分比率 51.0%

(6) 支払資金の調達及び支払方法
現預金により充当

(民事再生支援についての意向表明)

当社は、2024年1月26日開催の取締役会において、2023年10月30日付けで東京地方裁判所に民事再生手続開始の申立てを行った株式会社トポスエンタープライズ（以下「トポス」という。）に対し、民事再生支援（以下「スポンサー支援」という。）についての意向表明を行うこと及びスポンサー支援の一環として、株式会社バンカーズから、トポスが所有する借地権付き建物（以下「本件建物」という。）に設定された根抵当権の被担保債権を譲受けする債権譲渡契約を締結することを決議し、同日付けで譲受けしております。

(1) スポンサー支援の理由

当社グループにおきましては、これまでに数々のM&Aの実施を通じて規模の拡大を含む組織体制の強化及び再編に努めた結果、主力事業であるアーティストやタレント、スポーツ選手などの運営・管理を行う総合エンターテインメント事業のほか、バラエティ番組からテレビドラマ制作、映画・CM等に係る映像制作事業、そして数々の販促・コラボ・プロモーション企画等を手掛ける広告代理店事業など、IPホルダーでありつつ、興行・映像制作・広告企画などのアウトプット手段も有する、総合エンターテインメント企業グループとしての体制を構築してまいりました。

その中で、映像制作事業の中心を務める株式会社UNITED PRODUCTIONS（以下「UP」という。）におきましては、地上波向けのバラエティ番組を筆頭に、ドラマや映画、テレビCMやアーティストのMV制作のほか、同業他社や各放送局向けに映像制作に特化した人材派遣事業など、多種多様な映像コンテンツに携わる映像制作会社として事業を展開しております。

同社では、様変わりする映像業界における将来の在り方を見定め、映像機器等のレンタル事業及びポストプロダクション事業を展開する株式会社TechCarryをはじめ、国際共同企画の経験が豊富なプロデューサー陣を中心にグローバル標準となる作品の開発に向けたTOKYO ROCK STUDIO株式会社の新設など、近年は組織体制を含め、将来の変革に向けた投資に特に注力している状況にあります。

一方、トポスは調達・流通・保管に至るまでの物流の効率化及び合理化を念頭に1997年に設立された企業であり、全国各地に物流基地ネットワークを有する物流施設運営及び運送事業を筆頭に、卸売事業や一部ではホテル事業、コンビニ事業など、多岐に渡る事業活動を展開しておりましたが、2023年10月30日付けでトポスのグループ会社であるパチンコホール運営を営む株式会社ガイア（以下「ガイア」という。）が民事再生法の申請を行ったことに伴い、当社におきましてもガイアの金融債務の一部を保証していた兼ね合いから、事業継続のための手続きとして東京地方裁判所に民事再生手続開始の申立てを行い、同日付で受理されております。

一連の状況に対し、当社の取締役会長である藤澤信義が代表取締役社長を務める、当社の筆頭株主であるJトラスト株式会社（以下「Jトラスト」という。）では、これまでに関わった複数の事業再生案件の経験を活かす形で、ガイア及びトポスを含むグループ会社9社の再生支援に係る基本合意書を締結しております。トポスは当初こそパチンコホール向けの遊技台の保管及び運送に係る事業が中心であったものの、近年は一般物流事業、卸売事業をはじめとしたグループ外取引先のシェア拡大を図ることにより、自社単体での事業運営にはなんら差し支えない体制が整っている状況にあり、事業継続に支障がない状況を表明しておりました。

このような中、当社グループはJトラストからの紹介を受ける形で、トポスが有する複数の物流倉庫における広大な空間及び、運送用車両による機動力などの事業リソースの一部を、当社グループが展開する総合エンターテインメント事業や映像制作事業に取り込む或いは転用することによる、将来に向けた可能性につき模索することを主な目的として、同社のスポンサー支援についての意向表明を行うものであります。

なお、スポンサー支援の一環として、株式会社バンカーズから、トポスが所有する本件建物に設定された根抵当権の被担保債権を1,548百万円で譲り受けております。

(2) 支援先の概要

- | | |
|---------|------------------|
| ①名称 | 株式会社トポスエンタープライズ |
| ②住所 | 千葉県千葉市美浜区新港44番地3 |
| ③代表者の氏名 | 代表取締役 宮澤 成幸 |
| ④資本金の額 | 90,000千円 |
| ⑤事業の内容 | 運送事業、卸売事業、倉庫事業等 |